

1. 科目名 (単位数)	比較教育文化演習 (2単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	EDMP5365 EDMP5318
2. 授業担当教員	下出 美智子・片岡 浩			
4. 授業形態	講義と演習 (ディスカッション、グループ学習等)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし。			
7. 講義概要	グローバル化が進む現代、文化的背景の異なる人々と良好な関係を築くためには、互いの文化と出合いを知ることは重要な意味を持つ。本講義では、わが国や諸外国における芸術教育 (音楽、美術、言語) の文化比較を通して、異文化理解や多文化共生についての学びを深めていく。今回、芸術に特化して論じるのは、芸術は創造的であり、民族の境界を越えて人々に訴え、社会を活性化させていく力があると考えからである。実際の授業では、諸外国と我が国の音楽フェスティバルや教育、言葉や五感による表現の体験とコミュニケーション、という観点から考察していく。			
8. 学習目標	1.我が国及び諸外国の芸術教育の比較・検討を通して、異文化理解や多文化共生の意味について考察する。 2.言語・五感による表現とコミュニケーションについて実践的に学び、認識 (記号的認識、感覚的認識) の意味について考察する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の事前、事後に配布される論文や書籍を購読し、内容の説明ができるようにしておく。 その他、授業ごとに指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 なし。必要な資料は配布する。 【参考文献】 ・下出美智子『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』風間書房,2016 ・若林忠弘『世界の民族音楽』東京堂出版,2003 ・村山貞也『人はなぜ音にこだわるか』KK ベストセラーズ,1990 ・臨床美術プログラム			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・我が国及び諸外国の芸術教育の比較を通して、異文化理解や多文化共生の意味を探ることができる。 ・言語や五感による表現とコミュニケーションの体験を通して、記号的認識と感覚的認識の意味について理解することができる。 ・これまでの学習を通して理解したことや発見したことをまとめ、レポート発表することができる。 ○評定の方法 日常の授業態度 10%、取り組み (自ら感じ考え、思考し、行動する姿勢) 20%、出席状況 20%、レポート & 課題 50%として、総合的に評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	教師、研究者としての資質・能力の向上に努めてほしい。 研究論文作成に向けて進んで文献・資料の収集や調査を行う等、試行錯誤しながら学びを深めてほしい。			
13. オフィスアワー	事前にメール等でアポイントをとって下さい。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	オリエンテーション (授業の進め方、評価について)。比較教育文化論について			
【学習の目標】日本人の音の聞き方・捉え方や、科学的・芸術的認識をテーマとした学習を通して、比較教育文化論についての理解を深めていく。 【学習の内容】DVD《日本の音風景》の視聴と「音」の聞き方・捉え方。科学・芸術表現における認識。 【キーワード】音、芸術表現、異文化、比較 【学習の課題】学生間で「音」の捉え方や科学・芸術表現の認識について考え討論できる。 【参考文献】DVD《日本の音風景》 【学習する上での留意点】要点を整理して自分の考えが発表できるようにすること。				
2～4. テーマ	諸民族の音楽文化の比較と多文化共生			
【学習の目標】諸民族の音楽文化の比較を通して異文化理解と多文化共生についての意味を探る。 【学習の内容】南アフリカの民族融和をテーマとした音楽フェスティバルの取り組み。 中国内モンゴル自治区の大学におけるモンゴル民謡《オルティンドー》の実践。 我が国の高天地区における野外コンサート (アジア・日本の音楽) の取り組み。 【キーワード】諸民族の音楽、比較、共生 【学習の課題】DVD視聴を通して感じ考えたことを整理し発表することができる。 【参考文献】DVD《南アフリカの音楽フェスティバル》。DVD《中国内モンゴル自治区のオルティンドーの実践》。 【学習する上での留意点】南アフリカや内モンゴルの基本情報について文献等で調べておくこと。				
5～6. テーマ	海外の音楽教育に見る異文化理解			
【学習の目標】海外の異文化理解を意識した音楽教育の実践を通して、多文化共生について考える。 【学習の内容】オーストリア・モーツァルトウム (音楽) 大学の「子どもシアター」や「打楽器演奏」の授業の実際。 【キーワード】音声言語、リズム、打楽器、異文化 【学習の課題】学習を通して感じ考えたことを整理し発表することができる。 【参考文献】『言葉・動き・音楽による表現の実践的研究』 【学習する上での留意点】事前に参考文献を読んで予習を行っておくこと。				
7～8. テーマ	音声言語 (擬音語・擬態語) の多文化比較			
【学習の目標】擬音語・擬態語の多言語比較を行い異文化理解に繋げる。				

	<p>【学習の内容】擬音語・擬態語の発生と風土・文化・教育との関わり。音声言語比較（日本語・ベトナム語・英語等）。</p> <p>【キーワード】擬音語・擬態語、風土、教育、文化</p> <p>【学習の課題】学生各自の国の擬音語・擬態語を調べ、言語発生に関わり等の視点から発表することができる。</p> <p>【参考文献】 村山貞也『人はなぜ音にこだわるか』</p> <p>【学習する上での留意点】事前に学習課題について調べ発表出来るようにしておくこと。</p>
9～11.テーマ	表現とコミュニケーション1
	<p>【学習の目標】五感による表現とコミュニケーションについて実践的に学ぶ。 言葉による表現、「記号的認識」と「感覚的認識」の意味合いを探る。</p> <p>【学習の内容】五感によるモチーフ認識を通して、「記号的認識」と「感覚的認識」の意味合いを体験的に探る。</p> <p>【キーワード】五感による表現、コミュニケーション、感性、芸術、文化、創造</p> <p>【学習の課題】講義内容を整理し、レポートとしてまとめ発表できる。</p> <p>【参考文献】 臨床美術プログラム（資料配布）</p> <p>【学習する上での留意点】事前に参考文献を熟読しておくこと。</p>
12～14.テーマ	表現とコミュニケーション2
	<p>【学習の目標】五感による表現とコミュニケーションについて実践的に学ぶ。 見えないもの（感性・感覚）を見えるもの（カタチ・色・動作）で表現する。また、第三者から発信されたその情報を読み取る。</p> <p>【学習の内容】音（音楽）を色とカタチで表現することを試みる。</p> <p>【キーワード】五感による表現、コミュニケーション、音楽・美術、芸術、文化、創造</p> <p>【学習の課題】プレゼンテーション・コミュニケーション学習。学んだことを整理し自分の考えを発表する。</p> <p>【参考文献】 臨床美術プログラム（資料配布）</p> <p>【学習する上での留意点】事前に、今まで学んだ文献の要点を整理し、自分の考えを発表できるように準備しておくこと。</p>
15.テーマ	これまでのまとめ
	<p>【学習の目標】芸術による表現や表現とコミュニケーションについて、これまでのまとめを行い発表する。</p> <p>【学習の内容】これまでの授業を通して分かったこと、発見したことをまとめレポート発表する。</p> <p>【キーワード】五感による表現、プレゼンテーション、コミュニケーション、音楽・美術、芸術、文化、創造</p> <p>【学習の課題】本講義の成果を発表する。</p> <p>【参考文献】 これまでの資料</p> <p>【学習する上での留意点】事前にレポートを作成し、指定された時間内に研究成果を報告する。</p>